

第20回 医療安全大会

気づきを促す多職種連携の事例検討会

2024年11月24日

医療法人新都市医療研究会「君津」会 玄々堂君津病院

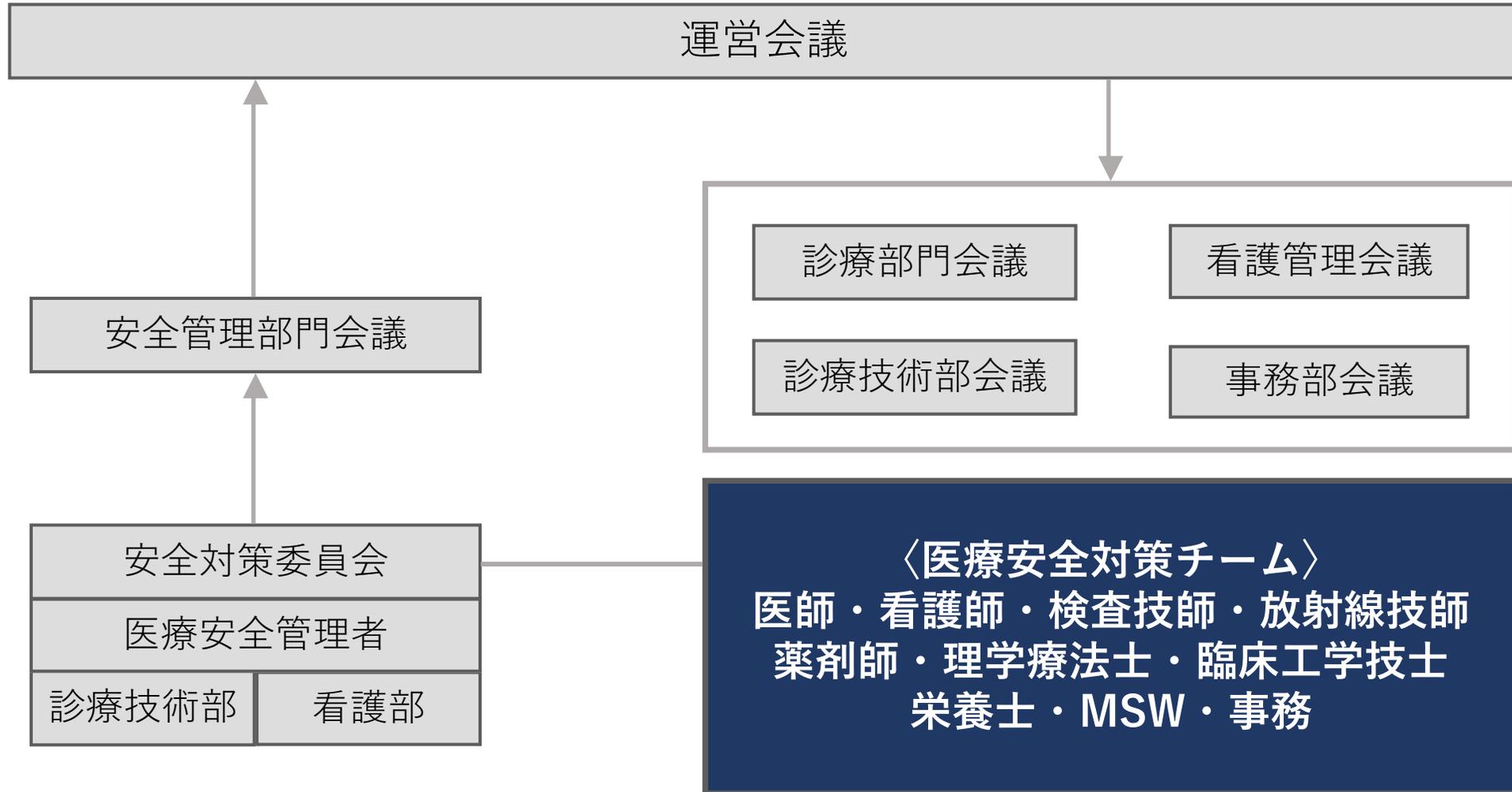
医療安全対策チーム：医師・看護師・検査技師・放射線技師
薬剤師・理学療法士・臨床工学技士
栄養士・MSW・事務
(発表者) 野村アコ・中尾薫

- 基本理念

「当院は一人一人の患者様を大切に、
良質で安心なぬくもりのある医療を提供いたします」

- 所在地 千葉県君津市
- 病床数 160床（一般病床132 療養28）透析119床
- 診療科 23科
- 特色 君津医療圏
二次救急病院
総合腎臓病センター
透析患者約680名





■ 医療安全指針

- 1 各部署でのインシデント、アクシデントについて把握し、必要に応じて**原因分析及び再発防止案について助言・指導**を行う
- 2 安全管理対策及び防止対策の企画及び結果を**院内に周知**するとともに、対策の実効性が高まるよう部門間の調整をする
- 3 実施した安全対策及び防止対策の**効果について評価**する

目的：医療安全対策チームで事例の分析、再発防止対策の検討

医療安全管理者によるインシデント報告の分析



- インシデントレベル3 b 以上の報告事例
- 繰り返し起こる事例
- 重大な事例につながるおそれがある



医療安全対策チームで事例検討会開催を決定



事例提供部署は振り返り用紙を作成

- 多職種が参加し意見交換
- 心理的安全性

“誰が”ではなく“何が”にフォーカス

事例共有

問題抽出

対策検討

院内共有

事例共有

事例内容 **利用者情報を確認しなかったため禁忌の物理療法を行った**

場所：通所リハビリテーション

経過：初回利用者
家族からの問い合わせで発覚
利用者の状態に変化なし

背景：紙カルテ運用
「フェイス・シート」利用者情報が記載

検討会実施理由：利用者には何らかの影響を与える可能性がある
情報確認の方法を確認する必要がある

目的：患者情報の共有を行い安全なリハビリテーションを実施する

問題抽出

- 物理療法の対象者
- フェイスシート（患者情報）の確認方法が統一されていない 個人差がある
- スタッフの体調管理
- リスク管理



利用者情報確認に関するルールがなかった

対策検討

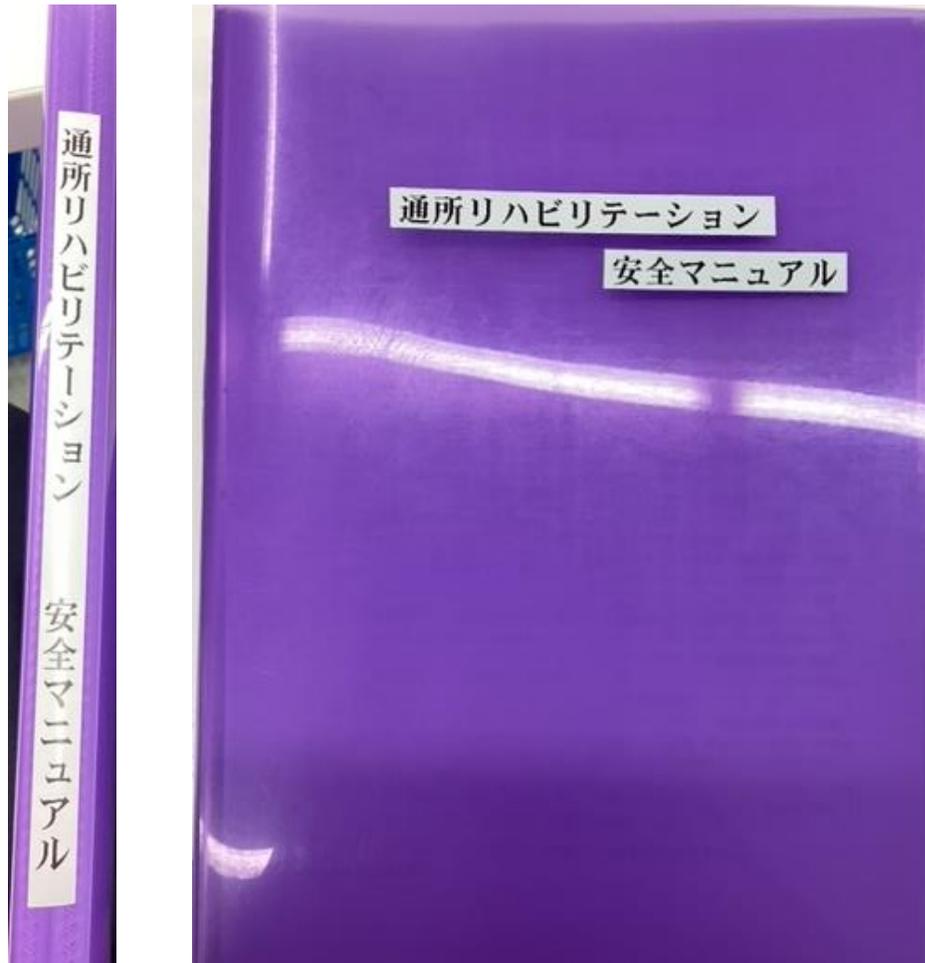
利用者情報確認マニュアルの作成

院内共有

事例検討内容を院内Web上で公開
院内全体の安全意識の向上



マニュアル作成



物理療法に関するマニュアルを追加

- 物理療法に関する**同意書**の作成
利用者も安全確認に参加
- 介護スタッフ・リハビリスタッフへ
マニュアルの内容を周知

安全の気づき



注意喚起のポップ

カルテに注意喚起



同様の事例は起きていない

- 1 **“誰が”ではなく“何が”起きたか**にフォーカスすることで、自分事として考え多職種より様々な視点から活発な意見が得られる
- 2 事例検討会を行い様々な意見をきくことで、
自部署では**気づかなかった対策**に取り組むことができた
- 3 気づきを**実行可能な対策**につなげることができた
- 4 事例検討会は、一緒に考えることで**安全に行うための気づき**を得られる
- 5 **心理的安全性**に留意し、職種や職位にとらわれず
「再発防止のために何ができるか」意見交換できる取り組みを行う